



真剣な表情で八戸小唄流し踊りの練習に取り組む八戸学院大学短期大学の学生ら

7月15日に八戸市中心街で行われる第53回八戸小唄流し踊り（東奥日報社主催）に向け、八戸学院大学短期大学の学生たちによる本格的な練習が23日始まった。本番には幼児保育学科1、2年と介護福祉学科1年の計約180人が参加予定で、参加団体屈指の大所帯として夏の街を盛り上げる。

八学短大は、八戸小唄流し踊りに2008年から参加している。20～22年は新型コロナウイルス禍により八戸小唄流し踊りが中止となったものの、地元の伝統を学び次世代へ継承するため、練習や学内発表会を行ってきた。

23日の練習はキャンパス内の体育館で行われ、日本舞踊泉流師範の泉彩菜さんから振り付けなどの指導を受けた。幼児保育学科1年の工藤和佳さん

## 伝統の舞 卒業生の分まで

＝八戸市出身＝は「当日見に来る方に、自分たちもこんな踊りをしてみたいと興味を持ってもらえるように、楽しく完璧に踊りたい」と意気込んだ。

同学科の本吉好講師は「学生には、八戸にこのような素晴らしい踊りがあることを体感してもらえれば。コロナ

### 八学短大生 小唄流し踊り練習

禍で本番に参加できなかった卒業生の思いも背負って頑張してほしい」と期待を込めた。

八戸小唄流し踊りは7月15日午後5時半スタート。踊り手たちが十三日町から三日町までを踊り歩くほか、八戸まちなか広場マチニワでは特別輪踊りが行われる。  
（白鳥遼）